

いちご病害虫情報第5号(10月)

平成27年10月23日
栃木県農業環境指導センター

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類(花)	備考
ほ場率	発生ほ場数	6	0	4	3	3	14	15	6	3	総調査ほ場数: 63か所 総調査株数: 1,575株 花調査ほ場数: 24か所 総調査花数: 1,200花 (調査株数 25株 (調査花数 50花)) ※ 年比 = (本年平均値 / 年比) × 100 ※ アザミウマ類の調査は花調査かつ年比は過去4年の値
	本年平均値	9.5	0.0	6.3	4.8	4.8	22.2	23.8	9.5	12.5	
	年比	4.0	0.0	19.0	5.0	15.5	29.4	26.0	18.9	52.6	
	年比	237.5	-	33.2	96.0	31.0	75.5	91.5	50.3	23.8	
	発生程度	多	少	やや少	年並	やや少	年並	年並	やや少	やや少	
株率	発生株数	0	0	13	0	2	99	16	7	4	○ 今月の病害虫発生状況 ○ ・ 定植後も一部のほ場で炭疽病の発生が認められます。 ・ うどんこ病の発生はやや少ない状況です。 ・ ハダニ類の発生は年並ですが、一部で発生株率の高いほ場が見られます。
	本年平均値	0.0	0.0	0.8	0.0	0.1	6.3	1.0	0.4	0.3	
	年比	0.1	0.0	4.3	0.1	1.9	8.6	1.9	1.5	2.8	
	年比	0.0	-	18.6	0.0	5.3	73.3	52.6	26.7	10.7	
	発生程度	少	少	少	少	少	年並	やや少	やや少	少	
概評		年並	少	やや少	やや少	やや少	年並	年並	やや少	やや少	

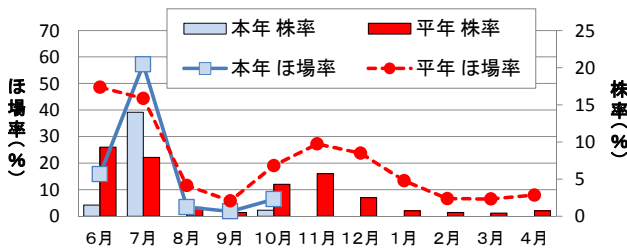


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

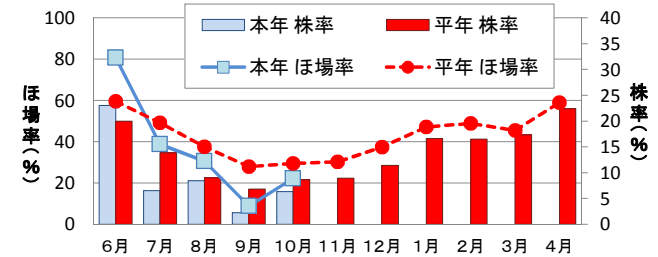


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

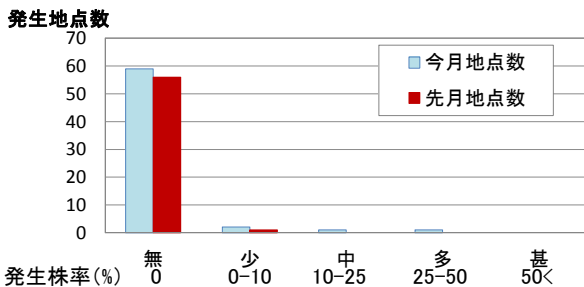


図3 発生程度別の地点数(うどんこ病)

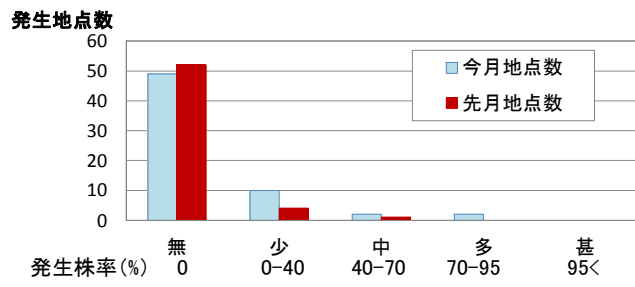


図4 発生程度別の地点数(ハダニ類)

○うどんこ病対策

- ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
- ・多発してからの防除は難しいため、現在発生が見られなくても、予防を主体にベルコートフロアブルやタフパール等を散布する。
- ・発生が見られたらトリフミン水和剤やシグナムWDG等を散布する。

○ハダニ対策

- ・ほ場をこまめに観察し、発生が見られたら葉裏を洗い流すように気門封鎖剤を5日間隔で複数回散布する。
- ・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- ・化学薬剤に対する感受性低下が著しいため、天敵製剤を活用する。
- ※ 当センターHPIに「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」を掲載中。



写真 うどんこ病

○今月の技術情報(技術指導班)○(10月)

- ・28年産は、育苗期後半から県内全域で炭疽病の発生が見られました。定植後は、炭疽病に加え、萎黄病の発生も確認されています。また、9月9日～10日の大雨により、浸水や冠水したほ場がありました。マルチングや保温開始に伴う地温の上昇や着果負担により、今後、両病害とも発病する可能性があります。これら発病株を発見した場合は、直ちに抜き取り、処分しましょう。
- ・気温の低下とともに、うどんこ病の発生が懸念されます。害虫は、全体的に年並～やや少ない状況ですが、保温開始までの徹底防除を心がけましょう。
- ・スカイベリーでは、病害虫ともに少ない状況ですが、引き続き定期防除に取り組みましょう。特に、灰色かび病に弱い傾向があるので、病害の発生しにくい環境づくりを心がけましょう。
- ・本年も気温の低下が早い傾向にあります。株の充実不足、生育停滞にならないよう、ハウス内の気温や水分をこまめに確認し、適正に管理しましょう。